総会議案書



日時 2021 年 5 月 書面開催

富田林の自然を守る市民運動協議会

総会次第

議事						
第1号議案	2020年度	事業報告		• •	•	• P. 1
第2号議案	2020 年度	決算報告		• •	•	• P. 22
第3号議案	2020 年度	会計監査報告	告 • •	• •	•	• P. 23
第4号議案	2021 年度	事業計画(劉	案) •	• •	•	• P. 24
第5号議案	2021 年度	予算 (案)		• •	•	• P. 26
第6号議案	富田林の自然	を守る市民運動協	協議会規約	的改訂第	₹•	• P. 27
第7号議案	2021 年度	役員(案)			•	• P. 29

第 1 号議案 2020 年度 事業報告

I. 2020 年度の活動の概要

当協議会の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動を行っている。具体的には①に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備(市街化地域の自然保護)」、②に関しては「米作り体験(田植え、稲刈り、稲こぎ)」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどと餅つき」、「里山生活入門」、「自然観察会(植物、昆虫、野鳥、水生生物)」、③に関しては「自然観察会(②と共通)」、「自然環境活用調査への協力」、「〈富田林の自然〉誌の発行」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである。①および②の活動については富田林の自然を守る会(以下守る会と略す)が行う活動の中で上記の行事を主催している。

一方、守る会は2019年度から設立30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施した。2020年度も林野庁からの「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さともり交付金)」(年額840,000円×3年)の助成を受けた。

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により(緊急事態宣言: 2020 年 4 月 7 日~5 月 25 日、2021 年 1 月 8 日~3 月 7 日)、協議会主催の多くの行事が中止された。自然を守る会は 6 月に奥の谷での活動における許容参加人数など「富田林の自然を守る会の活動における新型コロナウイルス感染防止のための指針」を作成した。

Ⅱ. 具体的な活動

1. 自然環境保全活動(生態系保全活動)

(1) 里山保全活動

表1												
		催日	時				参	加人	数			
No.	年	月	日	曜	行事名	作業内容	大人	子 ども	計	備考		
1		5	23	土	里山ホリデー	中止	_	_	_			
2		6	20	土	里山ホリデー	中止	_	_	_			
3	2020	7	18	土	里山ホリデー	中止	_	_	_			
4	2020	10	17	土	里山ホリデー	中止 (雨天)	_	-	_			
5		11	14	土	里山ホリデー	イノシシの柵作り	9	0	9			
6		12	20	日	里山作業と交流会	中止	_	_	_			
7	2021	2	13	土	里山ホリデー	薪作り	5	0	5	薪置場移動		
8	2021	3	13	土	里山ホリデー	中止 (雨天)	_	_	_			
			参	加老	首数合計(延べ)		14	0	14			

表1に示すように協議会主催の「里山ホリデー(「里山保全と交流会」を含む)」では多くが中止となり1年間に実施できたのは11月と2月の2回で参加人数は14人(昨年は88人)にとどまった。11月の活動では水の生き物池などへのイノシシ柵の設置を行った。里山保全活動は、このほか表2に示すように守る会の主催で取り組まれた「里山保全作業」(毎月第一金曜日、「大阪シニア自然カレッジ里山部会」の人たちが多数参加)もその多くが中止となった。

守る会は表3に示すように世話人を中心に1



水の生き物池のイノシシ柵

表2	表2里山保全活動(自然を守る会主催) 開催日時 参加人数													
	開	開催 E	3時		参	加人数								
回	年	月	日	曜	守る会 スタッフ	シニア 自然カ レッジ等	計	作業内容	備考					
1		4	3	金	3	18	21	竹林整備・畑作業						
2		5	1	金	_	_	_	_	中止(コロナ)					
3		6	5	金	_		-	_	中止(コロナ)					
4		7	3	金	_	_	_	_	中止(コロナ)					
5	2020	8	7	金	_	_	_	_	中止(コロナ)					
6		9	4	金	_	_	_	_	中止(雨天)					
7		10	2	金	2	16	18	竹林整備·畑作業	竹林:コドラートづくり					
8		11	6	金	2	19	21	竹林整備・畑作業	竹林:チッパー作業を含む					
9		12	4	金	2	14	16	竹林整備·畑作業						
10		1	8	金	3	5	8	竹林整備						
11	2021	2	5	金	_	_	_	_	中止(コロナ)					
12		3	5	金	_	_	_	_	中止(コロナ)					
	参加人	数さ	十計		12	72	84							

表3 5	守る会に	こよる自主	舌動(奥の名	;)		
	□ ₩		参加者数	汝		<i>11</i> − 21 ±
月	回数	会世話人	世話人以外	子ども	合計	作業
4	6	14	5	0	19	水田準備、工
5	19	73	25	0	98	作、道具点 検、観察路造
6	14	41	8	0	49	成、草刈り、
7	12	29	10	0	39	畑づくり、薪
8	5	16	0	0	16	割り、施設整 備、田の草取
9	5	12	1	0	13	り、材木搬
10	13	28	0	0	28	出、猪柵作
11	17	46	5	0	51	り、生き物の 池の竹垣作り
12	18	54	6	0	60	など
1	9	16	2	0	18	
2	13	22	15	3	40	
3	8	11	1	0	12	
合計	139	362	78	3	443	

また、施設整備班がみかん小屋や物置などの大改

修を精力的に行った。

守る会と NICE が共催して 1999 年から毎年実施している国際ワークキャンプも中止となり、守る会が受け入れて実施する自然環境市民大学 (公益社団法人大阪自然環境保全協会) も中止となった。このほか NICE の関連では週末ワークキャンプが 4 回 (6, 7, 10, 11 月; 守る会スタッフを含め延べ 36 人参加)、ボランティア研修 (3 日間; 延べ 17 人)、神戸大学学生 11 人によるワークキャンプ (3 月 15~26 日; 延べ 182 人) が行われた。これらの作業は主として人工林の間伐、皮むき、木材の搬出、竹の伐採、チッパー作業などであった。

(2) 石川河岸段丘の竹林整備(中野町)

太古の石川の河岸段丘崖が石川左岸側に延びており、竹林を中心とする自然植生が虫食い状に残されている。これらの自然は里山の自然とは異なるが、市街化区域に隣接する自然として極めて重

表4	中野田	丁竹林!	整備(協議	会主催	É)		
No.		開催日	時		参	∮加人数		作業内容
INO.	年	月	日	曜	大人	子ども	計	TF未內台
1		4	4	±	7	0	7	チッパー作業、東側法面の上の通路づくり準備
2		4	19	日	_	_	_	中止
3		5	2	土	_	_	_	中止
4		5	31	日	_	_	_	中止
5		6	14	日	_	_	_	中止
6	2020	7	4	土	_	_	_	中止
7		8	16	日	_	_	_	中止
8		10	4	日		_	_	中止
9		11	7	土	4	0	4	倒木整理
10		11	22	日	_	_	_	中止
11		12	6	日	_	_	_	中止
12		1	16	土	_	_	_	中止
13	2021	2	6	土	_	_	_	中止
14		3	6	土	3	0	3	上段平坦地間伐竹整理・竹運搬
参加	1者数台	計(延	べ)		14	0	14	

表5 守る:	会による自	主活動				
月	回数		参加	者数		作業
Н	凹致	会世話人	世話人以外	子ども	合計	TF未
4月	7	17	5	0	22	
5月	9	19	0	0	19	竹の伐
6月	5	9	0	0	9	採、チッ
7月	10	15	0	0	15	パー作
8月	1	1	0	0	1	業、筍掘 り、竹柵
9月	6	8	0	0	8	作り、散
10月	3	4	0	0	4	策路整
11月	1	2	0	0	2	備、草刈
1月	1	2	0	0	2	り、倒木
2月	2	2	3	0	5	処理など
合計	45	79	8	0	87	

要であると考えられる。これらの中でも中野町の竹林は比較的まとまった形で残されている。協議会は 2009 年から自然豊かな地域の憩いの場として整備している。

表 4 に示したように協議会は 14 回の作業日を設定したが、コロナ禍で多くが中止となり、実施できたのは 3 回のみで、参加者は延べ 14 人であった。一方、表 5 に示すように、守る会は世話人を中心に 1 人~数人による自主活動として 45 回作業を行い延べ 87 人が参加した。

なお、当竹林については市が地権者の岸本忠三氏より寄贈を受けることになり、現在そのための手続きが進められている。協議会は



東側法面上の通路とヒガンバナ

移管後の管理について 11 月に現地調査を実施し、「R2 年度「自然環境保全活用調査その 19」報告書より抜粋 (p. 17 参照)」に示すように、今後の管理方針を設定した。また、協議会は市の担当部署とともに岸本氏にご挨拶に伺い上記方針などをお伝えし、ご意見をうかがう予定となっている。

2. 文化的活動(自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動)

(1) 米作り体験

奥の谷の水田 (約300m²) を借地し、米作りを 実施。協議会の行事としては表6に示すように① 田植え、②稲刈り、③稲こぎ (脱穀) を行った。 田植えはコロナ禍で中止となったため、自主活動 として実施した。稲刈りは予定日の10月10日が 雨で順延となった。三行事を通じた延べ参加人数

	200	71 T 7 PT	· /9/^								
	п	行事名	月	H	曜		参加力	人数		内容	備考
	ш	11 事治	Л	I	₩	世話人	世話人以外	子ども	計		
)	1	田植え	6	6	土	10	2	0	12	手植え	中止となり自主活動
, 力	2	稲刈り	10	11	B	10	4	6	20	ノコギリ 鎌、はぜか け	予定日(10 日)が雨の ため順延
Š	3	稲こぎ	10	31	土	7	5	1	13	足踏み脱穀 機、篩、唐	
+		参加者	数合	計		27	11	7	45		
X.											

は45人であった。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

表7	その他の文化	的行事									
口	行事名		開催	日			参加	人数		内容	備考
凹	11 尹冶	年	月	日	曜	世話人	世話人以外	子ども	計		
1	春の野草を食 べる会	2020	4	29	水	1			1		中止
2	里山クラフト	2020	11	21	H	2	4	1	7	蔓植物の採取、つる細工	
3	どんどともち つき 2021 1 10 F			日			_	_		中止	
4	里山生活入門	1	30	土			_			中止	
	参加者	数合計				2	4	1	7		

(2) その他の文化的行事

その他の文化的行事を表7に示す。「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどともちつき」、「里山生活入門」を予定したが、多くがコロナ禍で中止となり、里山クラフトのみが実施できた。

里山クラフトは蔓細工を中心に11月21日(土)に佐々木氏を講師に実施した。午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツヅラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠作りを行った。子ども1人を含め7人の参加であった。



里山クラフト (つる細工)

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察

自然観察会は表8に示すように、コロナ禍で中止となったものが多く、開催できたものは植物観察会1回、野鳥観察会、観察会入門の3回のみであった。実施した観察会を通じての延べ参加者数は36人であった。

(2) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託 した調査に、協議会が協力して調 査に参加した。今回の調査は富田

表8	自然観察会										
回	行事名		開催	日			参加	人数		観察した生き物	備考
ш	1」争位	年	月	П	曜	世話人	世話人以外	子ども	計	観景した王さ物)拥 专
1	植物観察会		4	18	Ŧ	_	_		_		中止
2	植物観察会		5	16	日	_	_				中止
3	植物観察会	ĺ	6	13	土	_	_	_	_	-	中止
4	水の生き物観察会		6	27	H	_	_		_		中止
5	植物観察会		7	12	日	_			_	ı	中止
6	昆虫観察会	2020	7	25	Ħ	_			_	-	中止
7	植物観察会		8	8	H	_	_		_		中止
8	植物観察会		9	19	±	_	_		_	I	中止
9	植物観察会		11	8	日	2	2	1	5	開花草本:在来種21 種、外来種8種 木本19種	奥の谷
10	野鳥観察会	2021	2	21	B	4	14	1	19	34種	滝谷不動駅〜石川 〜春日神社〜奥の 谷
11	観察会入門		2	27	±	6	5	1	12	開花草本12種	奥の谷
	参加人数合言	+(延べ)				21	3	36		

林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、 既存の文献から市域に棲息する水生生物および哺乳類についての 文献調査である。また、補足調査として中野町竹林の実地調査に 参加した。活用調査その19として調査報告書にまとめられた。本 経過報告の末尾に調査概要を掲載する。

(3) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

富田林市緑の基本計画は2019年3月に新しく策定され、2年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっており、その実施について議論し、当協議会で進行管理を行うこととなった。しかし2020年度



観察会入門 (春を見つけよう)

は新型コロナウイルスの影響もあり、協議会役員会が開催できないことが多く議論が進んでいない。

(4) 冊子「富田林の自然」No. 18の発行

No. 18 は 2019 年度の協議会の取り組みの報告を含めて 2020 年 3 月発行予定であったが、一部の原稿が大幅に遅れたため 1 年遅れて 2021 年 3 月発行となった。

(5) 守る会などによる調査

①モニタリング 1000 里地調査(以下モニ 1000 と略す)

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会(以後 NACS—J と略す)に委託して実施している調査で、守る会は 2009 年から植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。 2020 年は12 年目となる。

植物の調査は2020年6月26日、7月24日、8月28日、11月27日、12月25日、2021年3月12日に実施した。2020年4月、5月はコロナ禍のため、9月、10月、2021年1月、2月は雨天のため実施できなかった。

チョウの:調査は 2020 年 8 月 14 日、9 月 11 日、11 月 13 日、2021 年 3 月 26 日に実施した。2020 年 4 月、5 月、6 月 7 月、10 月は雨天のため実施できなかった。2020 年 12 月、2021 年 1 月、2 月は冬季のため実施予定外であった。

②錦織公園の植生調査への協力

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。ここでの

調査はルートセンサスによる植生調査を中心に植物以外の生物についても調査した。5月に2015年~2019年の調査結果をまとめて「錦織公園自然調査報告書」が作成され公園事務所および大阪府富田林土木事務所都市みどり課に提出された。

③フクロウの調査への協力

守る会は大阪府立大学のフクロウ調査に協力した。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し、5月に2羽の雛の足にリングを装着した。また、他の巣箱にはムササビが入っているのが確認された。

4. 自然保護活動への支援・援助

国際ワークキャンプ

1999 年から毎年実施してきた行事で毎年援助を行っているが、2020 年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催が中止された。

5. 協議会参加団体の活動

(1)金剛の自然環境を守り育てる会

近隣の住宅開発で失われる自然環境に危機感を持ち、寺池台3丁目の住人有志で立ち上げた会で15年になる。近年は会員と世話人の減少、高齢化で活動も限定されてきた。

月2回、錦織公園に続く遊歩道と花壇の整備をしている。

連絡先:〒584-0073 富田林市寺池台 3-15-10 喜田光子 TEL/FAX 0721-28-4737



遊歩道の整備

(2) 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい"里山的" 生き方・暮らし方 の提案」を

コンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約120名。河南町の里山や富田林市の嶽山ふもとの果樹園などで、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林の保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

- ●里山ボランティアの日(里山体験)●里山日和(里山体験)
- ●里山っ子クラブ(子供対象) ●もりあん(技術講習)
- ●弘川千年の森(協働事業) ●ツリーイング(木登り)
- ●里山と暮らす応援講座(里山実習)
- ●源流米パラダイス (棚田の保全活動)
- ●スモールファーム自給塾(農業研修)

<生産販売事業>

- ●里山事業部(森林作業請負、炭・薪等の生産販売)
- ●里山倶楽部自然農場 (無農薬米、野菜等の生産販売)

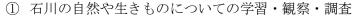
<まちづくり・調査研究活動>

- ●里山バイオマスエネルギー事業部 (薪炭林のエネルギー化研究)
- ●里山環境教育オフィス (企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業)

連絡先: 寺川裕子,〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

(3) 石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、 行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をと りもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうこ とをめざして、以下のような活動を行っています。



- ② 子どもたちが石川の自然を体験できる機会の提供
- ③ 石川の自然についてのPR活動
- ④ 石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術 の検討・提案



里山と暮らす応援講座



カヤネズミの営巣調査

- ⑤ 地域の人たちや市民団体、行政や専門家との協働の場づくり
- ⑥ 石川流域におけるネットワーク活動

毎月一回、第二木曜日に、石川に生息する希少な生きものを守る「自然ボランティア」活動、各季節に植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会も実施しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画 運営協議会」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な取組みを行っています。

連絡先: 寺川裕子,〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

(4) 嶽の会

2021年1月30日の里山生活入門講座は雨のため中止、他の活動もコロナ等の関係で実施できませんでした。

連絡先:上角敦彦,〒584-0024 富田林市若松町 4-6-29, TEL 0721-24-8757

(5) 竜泉・里山クラブ

2020 年度はコロナの影響のため、年度当初から活動休止、 自由参加となり細々とした活動でしたが、緊急事態宣言解除後 の5月から、共同作業ができるようになりました。

みかん農園の手伝い(剪定枝の収集・焼却、摘果、採果等)を 第一に、農園主の畑を借りての里芋、さつま芋、基地内でのキ ィーウイ、栗、隼人瓜、ヘチマ等例年どおりの栽培に加えて蜜 源にと菜の花を加えました。

10月は放置竹林の間伐整理をし、来年用の竹炭材の確保をし、 2月には昨年できなかった基地内のクヌギで椎茸の種駒打ち ができました。



ミツバチの分蜂

今年は各イベントが中止となり芋類や製造した竹炭、竹酢液等の販売ができず活動資金に多額の不足が生じました。

コロナ禍の中、蜂蜜の分配が2回ありうれしいことでした。また分蜂が間近で見られ、無事、分蜂群を捕獲しました。

当クラブは富田林市の竜泉に活動拠点を置き、みかん農園の手伝い、野菜類・果実の栽培、養蜂、竹炭・竹酢液の製造等自然の中で楽しめる場となっています。

高齢で退会者もありますが、2名の入会がありました。

連絡先:中島正博, 〒586-0094 河内長野市小山田町 3079-8, TEL 090-7118-2517

(6) 富田林の自然を守る会

協議会参加団体の内「守る会」の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。2019年度から班体制を確立した。以下に示す班による活動を行った。班体制が定着し、活動が活発化してきている。1. 炭焼班、2. なんばる(南原)班、3. 米づくり班(自然農・畑)、4. 薪づくり班、5. 中野町竹林整備班、6. 果樹班、7. 施設整備班、8. 里山工作班、9. 観察会班(植物、昆虫、野鳥、水の生き物)、10. 昼食づくり班、11. ミツバチチーム、12. 草刈り班。

連絡先:田淵武夫, 〒584-0024 富田林市若松町 4-16-21, TEL 090-8888-3912

2020年度の活動などで特徴的だったこと

- 1. 新型コロナウイルスの感染の拡大を受け、種々の行事の中止が余儀なくされた。
- 2. 守る会の自主活動で奥の谷の竹林を抜ける道にアプローチする雑木林の道の付け替えが行われた (2018 年に府立大学が近くのコナラに設置した巣箱にフクロウが営巣したことから、フクロウの小径と名付けた)。
- 3. 水の生き物池の周囲および西尾田のイノシシ柵が整備され、水の生き物池の道路に面した柵に 自主活動により美しく竹化粧がなされた。
- 4. 施設整備班により、みかん小屋の大改修、物置の床の張替えと整備、テント下の排水路の整備などが行われた。

- 5. 自然を守る会が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さともり交付金)」840,000 円を受けた。
- 6. 中野町竹林整備が岸本忠三氏から富田林市に寄贈されることになった。
- 7. 協議会に市から市政70周年の感謝状楯の贈呈があった。

7. 会議

(1) 役員会

2020年4月17日(金)、6月19日(金)、7月17日(金)、9月18日(金)、10月16日(金)、11月20日(金)(2020年5月、2021年1月、2月、3月は新型コロナで中止)。

(2) 会計監査

2021年3月31日(水)。

(3) 総会

2021年5月10日(書面総会)。



きれいになったみかん小屋

生物多様性保全のための基礎調査

~R2 年度「自然環境保全活用調査その 19」報告書より抜粋~

(1) 富田林の水生生物および哺乳類についての文献調査

① 調査文献

富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域に棲息する水生生物(魚類以外)および哺乳類の情報をピックアップした。調査した既存文献はそれぞれ目的が異なりデータの精度もまちまちであるが過去の記録として重要であり、生物多様性保全の基礎データになる。今回調査したのは下記の文献であるが、このうち生物の専門家による調査記録は、No.2、3、7、11、14、15、16 で、それに順ずる記録(専門知識をもつアマチュアによる)は、No.1、4、8、9、13 である。その他のNo.5、6、10、12、17、18 は一般ボランティアなどによる記録メモである。

No.1 「石川」の自然環境の調査

- ・調査時期 1985~1988 (S60~63)
- ・調査場所 石川上流~中流~下流
- ・調査者 松本裕之ほか
- ·掲載文献 「大阪府立長野高校自然科学部 創部 15 周年記念誌」大阪府立長野高校自然科学部

No.2 生物調査(両生・爬虫類)

- ·調査時期 1988 (S63) 年6月、10月
- ・調査場所 富田林市公園墓地・斎場 事業地
- •調査者 富田林市
- ・掲載文献 「(仮)富田林市公園墓地・斎場・総合運動場建設事業関連 生物調査報告書」

No.3 動物の概況

- ・調査時期 1991 (H3) 年
- ・調査場所 石川河川公園自然ゾーン
- ・調査者 (株)都市緑地研究所
- ・掲載文献 「石川河川公園(仮称)基本設計その3設計説明書」大阪府南部公園事務所、 (株)都市緑地研究所 1991 (H3)3月

No.4 石川の魚と川の生きもの

- ·調査時期 1994 (H6) 年5月
- ·調査場所 千代田橋上流
- ·調査者 字佐美一郎
- ・掲載文献 「自然とのふれあい第2号」富田林自然に親しむ会

No.5 石川河川公園「自然ゾーン」ワークショップ 記録

- ・調査時期 2000 (H12) 年8月20日
- ・調査場所 石川河川公園自然ゾーン
- ・調査者 ワークショップ参加者
- ・掲載文献 「石川河川公園自然ゾーンワークショップ運営委託報告書」大阪府南部公園事務所、 (㈱ヘッズ 2001 (H13) 3月

No.6 大阪府を中心とした河川に於ける水生生物の生息状況

- ·調査時期 2003 (H15)年
- ・調査場所 淀川、石川ほか16河川
- ・調査者 シニア自然大学研究センター水生生物科
- ・掲載文献 NPO 法人シニア自然大学 研究部 水生生物研究科 ホームページ

No.7 大和川水系の水辺の生き物

- ·調査時期 2006 (H18)年
- · 調查場所 大和川流域
- ·調查者 大阪市立自然史博物館
- ・掲載文献 「第35回特別展 大和川の自然」大阪市立自然史博物館 2006

No.8 水の生き物池で観察した生物の記録

- ・調査時期 2014~2018 (H26~30) 年
- ・調査場所 富田林市奥の谷
- ・調査者 富田林の自然を守る会(田淵ほか)
- 掲載文献 未発表資料

No.9 石川河川公園 イベント実施記録

- ・調査時期 2018~2019 (H30~R1) 年
- ・調査場所 石川 (大黒橋、星の広場、駒ヶ谷地区等)
- ・調査者 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク
- 掲載文献 未発表資料

No.10 富田林奥の谷 採集記録

- ・調査時期 2020 (R2) 年2月7日
- ・調査場所 富田林市奥の谷
- ・調査者 シニア自然大学校 水生生物科・水辺環境調査会
- 掲載文献 未発表資料

No.11 大阪の哺乳類

- ・調査時期 1977 (S52) ~2006 (H18) 年
- ·調查場所 大阪府下
- ・調査者 和田岳ほか
- ・掲載文献 大阪市立自然史博物館「和田の鳥小屋」Web 掲載(文献情報のまとめ) http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/Mammal/osakamammal.html

No.12 富田林の動物たち

- ・調査時期 2008 (H20)~2011 (H23) 年
- •調査場所 富田林市
- ・調査者 富田林市の自然を守る市民運動協議会
- ・掲載文献 「富田林の自然」№9 2011年3月

No.13 第 30 回 里山一斉調査報告

- ·調査時期 2012 (H24) 年
- •調査場所 大阪府下
- ·調査者 公益社団法人 大阪自然環境保全協会
- ・掲載文献 都市と自然 436 号 2012 年 7 月

No.14 自動撮影カメラで確認された大阪府立環境農林水産総合研究所内の哺乳類相

- ・調査時期 2014 (H26)、2015 (H27) 年
- •調查場所 大阪府立環境農林水産総合研究所
- 調査者 幸田良介・辻野智之・三輪由佳・上森真広
- ·掲載文献 大阪府立環農水研報 3:9~11(2016)

No.15 富田林奥の谷におけるフクロウの繁殖状況 2017~2018 年調査報告

- ・調査時期 2017 (H29) ~2018 (H30)年
- ・調査場所 富田林市奥の谷
- ・調査者 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 岸澤勇希、上田昇平、平井規央 村濱史郎(日本バードレスキュー協会)
- ・掲載文献 未発表資料

No.16 市街地周辺における野生動物の出没情報

- ·調査時期 2020 (R2) 年
- •調查場所 大阪府下
- ・調査者 環境農林水産部 動物愛護畜産課野生動物グループ
- ・掲載文献 大阪府 Web 野生生物(ニホンザル、アライグマ)の出没情報 http://www.pref.osaka.lg.jp/doubutu/yaseidoubutu/shutsubotsur2.html

<u>No.17</u> カヤネズミの基礎情報

- ・調査時期 2008 (H20) ~2020 (R2) 年
- ・調査場所 石川河川公園
- ・調査者 石川自然クラブ
- ・掲載文献 石川河川公園 希少種保護マニュアル

No.18 各地の目撃情報

- ・全国カヤネズミネットワーク カヤネズミの発見記録 1979~2016
- ・ヌートリア、アナグマ、ハクビシン目撃情報 石川河川公園 2018~2019
- ・アナグマ、イノシシ目撃情報 河南町持尾 2019~2020
- ・アナグマ目撃情報 泉北・金剛さやまコミュニティ街かどニュース 堺市新檜尾台 2019

② 水生生物目録の作成

これらの文献に記載された水生生物すべてを一覧表とし、富田林市の水生生物目録(魚類はR1年度に作成)としてとりまとめた(富田林市内での調査が少ないため近隣地域の記録を含めた目録とした)。水生生物の総種類数は52種で、このうち特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種が4種あり、絶滅危惧種の記録はなかった。

③ 哺乳類目録の作成

同様に文献に記載された哺乳類すべてを一覧表とし、富田林市の哺乳類目録としてとりまとめた (富田林市内での調査が少ないため近隣地域の記録を含めた目録とした)。哺乳類の総種類数は29種 で、このうち大阪府のレッドデータブック掲載種は9種、環境省のレッドデータ掲載種は1種であっ た。特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト掲載種は6種あった。

なお、いずれの目録も、一般の人にもわかりやすいよう種名の記載は五十音順とした。

富田	l林市の水生生物目録	(魚類)	以外)						参考:	富田林市	以外の均	也域を含むデータ
		4 +		4 +				4+		4 +		
		参考	*	参考			石川	参考 石川	歯の少	参考		
目名	12. /2	石川 上中下流	総合 運動場	石川 _{自然ゾーン}	石川 千代田橋	石川 _{梅川合流点}	千代田橋	大和川	奥の谷 池	石川	奥の谷	
/	種名	1985		1001	1004	2000	石川橋		2014	2018	2020	府∶大阪府RDB 特定外来生物
科		~1988	1988	1991	1994	2000	2003	2006		~2019	2020	外来種リスト
名	データ引用図書	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
甲殼												
	リカザリガニ科 アメリカザリガニ	0			0	0	0		0	0		総合対策外来種
	ガニ科					U	0		O	0		心口对块外不懂
	モクズガニ									0		
	ガニ科											
	サワガニ	0						0				
エピ												
	トゲカイエビ							0				
	カブトエビ							0				
	<u>スジエビ</u> テナガエビ					0	0	0	0	00	0	
	<u> </u>						0	0		0		
	ホウネンエビ							0)		
両生												
	ガエル科											
-	カジカガエル							0				
	シュレーゲルアオガエル							0				
	ガエル科											4+ 1-5 41 +5 44 44
	<u>ウシガエル</u> タゴガエル			0				0	0	0		特定外来生物
-	<u> </u>		0					0				
	トノサマガエル		0					0	0			
	ニホンアカガエル							0	0			
-	ヌマガエル			0				0	0	0		
	ヤマアカガエル							0				
	ガエル科											
	ニホンアマガエル		0					0				
	ガエル科 ニホンヒキガエル											
	リ科							0				
	アカハライモリ		0					0				
	ショウウオ類							j				
	カスミサンショウウオ							0				
	ブチサンショウウオ							0				
	オオサンショウウオ							0				
爬虫												
	ヘビ科 ニホンカナヘビ		0									
	<u> ヘビ科</u>											
	シマヘビ		0	0								
	ヒバカリ		0									
28	ヤマカガシ		0									
カメ												
	イシガメ	0										
	クサガメ	0	0									
	スッポン	0		0						0		《公子生》 + 14
32	ミシッシッピーアカミミガメ	0								0		総合対策外来種

富田	林市の水生生物目録	(魚類)	以外)						参考:	富田林市	以外の地	域を含むデータ
		参考		参考				参考		参考		
目名	種名	石川 上中下流	総合 運動場	石川 ^{自然ゾーン}	石川 千代田橋	石川 梅川合流点	石川 千代田橋 石川橋	石川 大和川	奥の谷 池	石川	奥の谷	国:環境省RDB 府:大阪府RDB
/ 科	1±1U	1985 ~1988	1988	1991	1994	2000	2003	2006	2014 ~2018	2018 ~2019	2020	特定外来生物
名	データ引用図書	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	パネ作業サスト
貝類												
33	ウスイロオカチグサ							0				
	オオタニシ							0				
	カワニナ	0			0			0		0		
	クロダカワニナ							0				
	サカマキガイ			0	0	0			0		0	
	(シジミ)	0				0				0		
39	スクミリンゴガイ							0		0		総合対策外来種
	タイワンシジミ											
	(タニシ)	0										
	チリメンカワニナ											
	ドブガイ										0	
	ヒメタニシ				0			0				
	マシジミ							0				
	マルタニシ							0				
	モノアラガイ	0							0			
	動物											
	イトミミズ	0							0			
-	シマイシビル				0							
50	シマミミズ									0		
	セスジビル									0		
52	ミズミミズ						0					

富田	林市のほ乳類目録								参考:富	田林市場	以外の地域	域を含むデータ
		参考	参考	参考		参考			参考	参考	参考	
目名	瑶 力	大阪府	石川	大和川流域	富田林	河内長野	農林 センター	奥の谷	大阪府	石川	その他	国:環境省RDB
/ 科	種名	1977 ~2006	1991	2006	2008 ~2011	2012	2014 2015	2017 ~2018	2020	2008 ~2020	-	府:大阪府RDB 特定外来生物
名	データ引用図書	11	3	7	12	13	14	15	16	17	18	外来種リスト
食虫												
トガ	リネズミ科											
1	カワネズミ	0		0								府:情報不足
	ジネズミ	0										府:情報不足
3	ミズラモグラ	0										府∶Ⅱ類、国∶準
	う科											
	コウベモグラ	0	0		(O)							
	ヒミズ	0										
_	コウモリ科											
	アブラコウモリ	0										
	ヒナコウモリ	0						1				
霊長												
	ガザル科											
	ニホンザル	0							0			
兎目												
	ギ科											
	ニホンノウサギ	0				0	0					
齧歯												
リス												
	ニホンリス	0				0						
	ムササビ	0						0				府:準絶滅
_	ミ科											
	スミスネズミ	0										
	ハタネズミ		0		_							府:I類
	カヤネズミ	0		0	0					0	0	府:準絶滅
	ヒメネズミ	0										
	アカネズミ	0		1				ļ				60 A 1146 11
	ドブネズミ	0										総合対策外来種
	クマネズミ	0										総合対策外来種
	ハツカネズミ	0										総合対策外来種
	トリア科											*+ = = = += +=
	ヌートリア	0									0	特定外来生物
食肉	イグマ科											
												性学的女件物
- 21 イヌ	アライグマ	0		0	0		0		0		0	特定外来生物
	タヌキ						0					
	<u>メメヤーーーーー</u> キツネ	0 0		1	0			1				府:Ⅰ類
	チ科											かり・1 大規
	ア件 テン	0										
	<u>ァン</u> ニホンイタチ	0			(O)		(O)	1				府∶Ⅱ類
	<u>ーホンイタテ</u> チョウセンイタチ	0			(0)		(O)	+				INJ· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	アナグマ	0		 	(0)		0	 			0	府:準絶滅
	ハクビシン	0						 			0	総合対策外来種
偶蹄												wo ロバルバー イビ
	シシ科											
	イノシシ	0			0	0					0	
	1///]								

(2) 生物多様性保全の取組みについて

① 調査結果のまとめ

●絶滅危惧種の状況

水生生物については絶滅危惧種の記録はなく、哺乳類のうち、大阪府レッドデータブックで絶滅危惧 I 類に指定されているハタネズミは、1991年の石川河川公園の調査で坑道の確認記録があるが、キツネは大阪南部での具体的な文献記録がみつからなかった。また II 類のミズモグラ、ニホンイタチも大阪南部での文献記録はみつからなかった。準絶滅危惧種のムササビは、河内長野市で 2 件の記録(自然史博物館の標本)があり、カヤネズミは富田林市内の奥の谷や石川で継続的に確認されている。またアナグマは 1998年に河内長野市での記録があるほかは、大阪南部での文献記録はみつからなかったが、2019年に Web 情報として堺市、また目撃情報として河南町での記録がある。情報不足種のカワネズミは 1977年の石川上流部の記録のみで、ジネズミは 1994年に富田林市、1979年に河内長野市の記録がある。

哺乳類について記録した文献は少ないため、これらに掲載されていなくても絶滅危惧種が生息している可能性はある。特にカヤネズミは、「全国カヤネズミネットワーク」の全国調査で2000年以降に富田林市や南河内地域で継続して記録されており、石川河川公園で2009年に「モニタリングサイト1000」の調査が行われている。石川ではその後2012年から毎年の営巣記録がある。

<大阪府レッドデータブック 2014 掲載種(哺乳類)>

· 絶滅危惧 I 類

1. ハタネズミ (1991 石川: 坑道 文献3)

2. キツネ (1997~2006 大阪府下: 文献 11)

・絶滅危惧Ⅱ類

3. ミズラモグラ (1997~2006 府外の二上山、岩湧山:文献 11) 環境省:準絶滅危惧

4. ニホンイタチ (1997~2006 大阪府下: 文献 11)

• 準絶滅危惧種

5. ムササビ (1993,2000 河内長野市: 文献 11、2018 奥の谷: 文献 15)

6. カヤネズミ (1997~2006 大阪府下: 文献 11)

(2008~11 富田林市:文献 12) (2008~2020 石川:文献 17)

7. アナグマ (1998 河内長野市加賀田: 文献 11)

(2019 堺市新檜尾台、2019, 2020 河南町持尾: 文献 18)

•情報不足

8. カワネズミ (1977 石川上流部: 文献 7, 11)

9. ジネズミ (1994 富田林市甘南備、1979 河内長野市天見)



ムササビ 2018 奥の谷: 文献 15 より



アナグマ 2020 河南町持尾: 文献 18 より

●特定外来生物等の状況

調査記録のうち特定外来生物に指定されているものは、水生生物はウシガエル1種、哺乳類はヌートリア、アライグマの2種、生態系被害防止外来種リスト※の掲載種は、水生生物ではアメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ、スクミリンゴガイの3種、哺乳類ではドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ、ハクビシンの4種である。

※生態系被害防止外来種リスト

(我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 平成 26 年度公表)

生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種のリストであるが、特定外来生物及び未判定外来生物以外は外来生物法に基づく規制の対象にはならない。

なお、本リストの作成をもって、要注意外来生物は発展的に解消される。

~環境省資料より抜粋~

〇水生生物









アメリカザリガニ

<u>ウシガエル</u>

ミシシッピアカミミガメ

スクミリンゴガイ

写真:国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター「侵入生物データベース」Web ページ

写真:ウィキペディア

〇哺乳類

石川河川公園で確認された外来生物

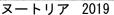






ハクビシン 2019







ヌートリア 2018

② 富田林の水生生物および哺乳類について生物多様性保全の視点からの提案

●重要な生息地(奥の谷、石川)の環境保全

今回の文献調査では、近年(2010年以降)に南河内地域での確認データがある在来種の哺乳類は、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、カヤネズミ、タヌキ、アナグマ、イノシシで、富田林市奥の谷では準絶滅危惧種のムササビとカヤネズミ、石川河川公園ではカヤネズミが確認されている。この2ヶ所は各種の生物調査や生きものの保護活動などが長期間にわたって継続実施されている場所で、富田林市域において豊かな生物多様性を維持している重要な生息地となっている。

奥の谷のムササビは、2017~2018 に行われたフクロウの繁殖状況調査(文献 15)の過程で、巣箱に入っているのが発見されている。隣接の河内長野市の山間部で確認記録(文献 11)があり、「樹上性のリスで、昼間は樹洞で休み、~略~ スギに巣も食料も依存する度合いが大きく、スギの巨木がある社寺林に生息していることが多い。(文献 11)」とのことから、奥の谷周辺のスギ人工林などを生息地として利用していると考えられる。

また、カヤネズミは前掲のようにオギやススキなどのカヤ草地を住みかとし、主にイネ科の種子やバッタ・イナゴなどの昆虫類をエサとして生活しているため、奥の谷での水田や畔の保全管理、また石川河川公園でのオギ原の保全管理によって、生息に適した自然環境が維持されている。

ムササビもカヤネズミも、巨木のある森林やススキ草地・カヤ原など生息に適した環境が近年激減 したことから絶滅が危惧される状況に至っており、奥の谷や石川河川敷での保全管理を今後も継続し ていくことが非常に重要である。

< 奥の谷での森林保全の取組み>



スギヒノキ林の間伐実習



台風の倒木処理作業

<石川河川公園でのオギ草地保全の取組み>



人力でのクズ取り作業



重機を使ったクズ根茎の掘り起こし除去

●外来生物への対応

総合対策外来種のリストに掲載されているアメリカザリガニ、ウシガエル、ミシシッピアカミミガメ、スクミリンゴガイは、すでに日本全国にわたって定着がみられる生きもので、これらをすべて除去することは不可能と考えられる。しかしながら、在来生物が多く生息する重要なため池や水田、湿地など限られた水域では、トラップや池干しなどを工夫してできるだけ駆除することが望まれる。





石川河川公園での池干しと捕獲したアメリカザリガニ

特定外来生物のアライグマは、近年特に生息域が広がって農業被害などが出ており、自治体によって外来生物法に基づく防除が実施されている。富田林の奥の谷でも 2008 年に足跡が確認され(文献 12)、周辺で農産物の被害も見聞されることから、今後に増えてくるとタヌキなどの在来の生き物と競合し、生息地をおびやかす可能性がある。また同じく特定外来生物のヌートリアは、石川河川敷周辺に定着していると考えられ、在来生物への今後の影響が懸念される。これらの動物については、富田林市をはじめ周辺市町村と相談して捕獲器などによる駆除を行っていく必要がある。



奥の谷に設置した捕獲器(2010イタチ捕獲)



アライグマ捕獲檻(大阪府 HP より)





捕獲されたヌートリア(大阪府 HP「ヌートリア防除マニュアル」より)

2. 補足現地調査(中野町竹林)

当該竹林は、「富田林の自然を守る市民運動協議会」が 12 年間にわたって整備を行ってきた。整備作 業は「富田林の自然を守る会」のボランティアメンバーによって進められ、当初の荒れた竹藪景観が密度管 理された美しい竹林となり、ヒメボタルやカブトムシなどの昆虫の生息地、カモやホトトギスなどの野鳥の飛 来地として生物多様性が向上した。住宅地や工業団地に囲まれた当地が、生物多様性の高い緑地として 保全されるようになったことは、富田林市の自然環境保全やまちづくりの視点から高く評価される。

今後、当地を富田林市の緑地として整備する際には、これまでのボランティアによる尽力の成果を十分 に活かして豊かな自然環境を維持し、さらに向上させる管理手法が求められる。そこで、当該竹林の現況 調査と整備についての検討を行い、以下のような今後の管理方針を設定した。

●今後の管理方針

1. 里山の自然環境をめざした植生管理

12年間の整備作業では、周辺の里山環境の復元をめざして、竹林の密度管理や草地管理、林床 植生の導入、樹木の選択的伐採などを実施してきた。今後も同様の植生管理を継続する。

<留意点> ・植物を植栽する場合は、近隣の在来種とし、園芸植物を持ち込まない。

2. 生き物の生息に配慮した保全管理

現地で見られる様々な生き物の生息環境を保全するための配慮を行う。

<留意点> ・ヒメボタル → ある程度密生した竹林環境を維持する。

外灯は最小限とし、影響のある時期には点灯しない。

- ・カブトムシ → 幼虫のための腐葉土などを適宜配置する。
- カモ等 → 野鳥が営巣できる樹林や草地、ヤブを残す。

3. 地域の人々が安全に自然に親しめる整備

自然環境や生き物の生息地を保全したうえで、周辺地域の人々が安全に利用できる整備を行う。

- <留意点> ・車イスが通れる園路を整備する→ ただしルートを限定し、最小限の舗装とする。
 - ・水路沿いには、転落防止柵などを設置する。
 - ・風倒木などの危険がある大木は適宜伐採する。
 - ・マムシがいることがあるため、注意喚起の看板などを設置する。

4. 必要最小限の施設整備

自然環境保全を優先し、園路や柵、外灯等の施設整備は必要最小限とし雨水の浸透に配慮する。

- <留意点> ・園路や柵などの素材やデザインは、できるだけ自然になじむものを導入する。
 - ・園路は透水性舗装とし、「縁石」は設置しない。
 - ・街灯は、その必要性を十分検討し、設置数(最小限)と位置を今後に検討する。
 - •竹の根茎の伸長防止板を設置する場合は、透水性の素材を使用する。
 - ・ボランティアの手作り整備(門、柵など)を、できるかぎり活用する。

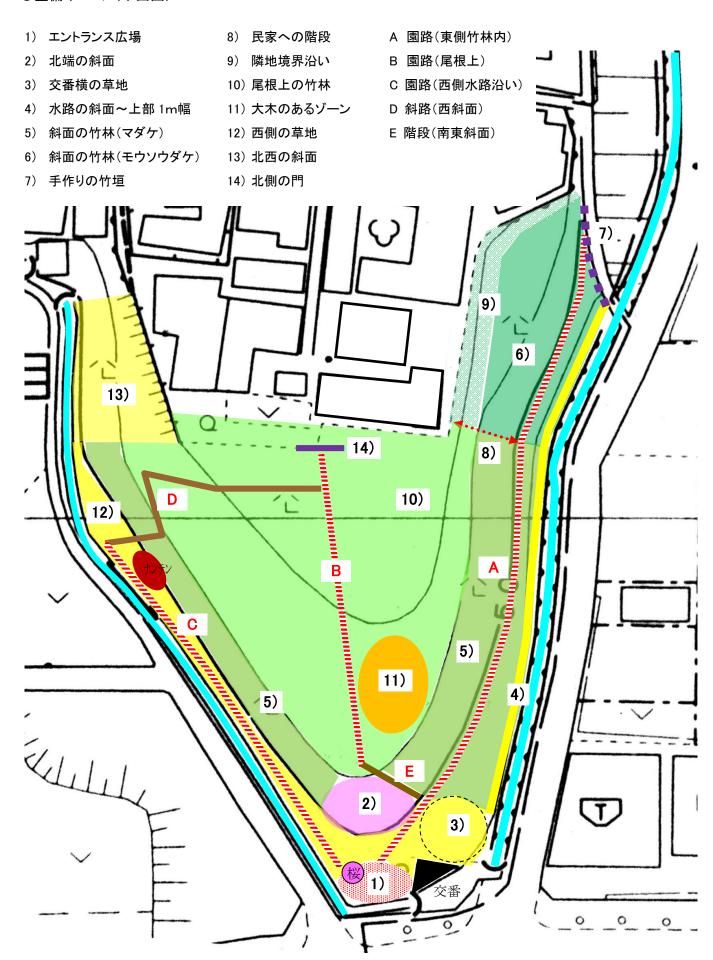
5. 協議会との協議に基づく順応管理

今後の整備内容や管理方針は、「富田林の自然を守る市民運動協議会」と協議して定め、自然環 境の変化に応じた臨機応変な管理を可能なかぎり導入する。

- <留意点> ・年度当初に富田林市および業務委託先との協議を行い、管理方針を確認する。
 - ・自然環境保全について、協議会から要望があった際は協議を行う。
 - ・協議会は、通常の管理業務以外の自然環境保全作業に可能なかぎり協力する。
 - ・整備で生じる産物(竹・木材、チップなど)を利用する際は、協議会の承認を得る。
 - 竹林を利用したイベントは協議会の承認を得て開催する。

(これまでの実績: 筍狩り、そうめん流し、竹細工、小学校ボランティア授業など)

●整備イメージ(平面図)



●整備の留意ポイント

- 1) 南側の入口
 - ・記念植樹の桜を植栽済み
 - ・エントランス広場として整備する



- 3) 交番横の草地
 - ■草丈 50~100cm を維持
 - ・草花の生育、カモ等の営巣に配慮



- 5) 斜面の竹林(マダケ)
 - ・ヒメボタル保護のため、竹を伐採しない
 - ・枯れ竹、倒木のみを伐採処理
 - 樹木は樹種や大きさなどで残すか判断する



2)南端の斜面

・里山の花木類を植栽する (ツツジ類、クサギなど)



- 4)水路の斜面~上部 1m幅
 - ・生えてくる竹や木を伐採、
 - ・除草して草地(ヒガンバナ等)を維持
 - ・水路への転落防止柵を設置する



6) 斜面の竹林(モウソウダケ)

5)と同様の管理を行う。



7) 手作りの竹垣

・このまま残してもよいが、耐久性などを 勘案して新設する場合もある



9) 隣地境界沿い

・隣地所有者の意向に沿った管理 (柵の設置、境界沿いの竹伐採など)



11) 大木のあるゾーン

- ・クヌギ、ムクノキ、エノキなどの大木を残す
- ・竹を伐採して雑木林の広場とする



13) 北西の斜面

・隣地境界の確認後に管理方法を検討する (草地として維持管理?)

8) 民家への階段

・民家に入り込まないよう対応が必要



10) 尾根上の竹林

- ・およそ現在の密度で管理する (混みあった竹の間伐、枯れ竹の伐採等)
- ・林床に里山の草本類を植栽する



12) 西側の草地

- 草本類の生育地として管理する (低茎:草丈 20~50cm)
- ・ナンテン群落は刈り残す



14) 北側の門

- ・私有地を通るため管理以外は通行禁止
- •一般利用者が入らないような対応が必要





園路 A、B、C) 車イスが通れる園路として、最小限の舗装(透水性、縁石なし)を整備する。



A(東側竹林内)の現況

園路 D、E) 尾根上の竹林まで斜面を登る、階段やスロープを整備する。





第2号議案 2020年度(令和2年度)会計決算報告

	一つ成不	` .		- 1 /_	. \ - H	2十汉)	— "	//\ +						
収入						x-x-			単位:円					
項 目	予 算	金							前年度実績					
補助金	270, 000			市からの助成金				270, 000	270, 000					
111323 111	270,000			生態系保全(里山ホリデー)				2, 400						
					観察会(野鳥観察会、植物観察会、観察会入門)									
行事参加費	110, 000	24,	900	米作り (稲刈	り、稲こる	Ē)		10, 800	69, 900					
				文化行	事 クラフト)			1, 500						
				NICE週	末			6, 000						
寄付金	300, 000	490	924	みかん	小屋泊			9, 000	430, 654					
可以亚	300, 000	430,	324	神戸大学	ウークキャン	プ(みかん小唇	₹11泊)	33,000	430, 034					
				富田林	の自然をで	する会より		442, 924						
総計	680, 000	785,	824						770, 554					
支出									単位:円					
項	B		予 算					_	前年度					
- A			J.	71	金額	内部	!	支出	実績					
報償費			3	30, 000	40, 000			40, 000	30, 000					
						事務用品		16, 002	2					
消耗品費			15	50, 000	00 110, 905	保全活動		50, 78°	256, 626					
/月秋吅具			150,00		110, 903	畑など		16, 096	5 230, 020					
						その他		28, 026	6					
郵送費			1	10, 000	11,762			11,762	2 919					
						軽トラ		13, 31	5					
粉炒			,	30, 000	0 000	0 000	000	000	000	75, 152	作業機械		55, 67	7 72 227
燃料費					75, 152	発電機		6,160	73, 237					
						その他		(o l					
賄い材料費			5	50, 000	23, 209			23, 209	34, 941					
備品費				30, 000	·			66, 170						
修理費				00, 000	·			124, 559						
				10.000		事 務 祈雷	気代	4, 64	7					
施設管理費			10, 000		198, 483	施設整備	 費	193, 836	44 4/1					
保険料		7	70, 000	85, 584			85, 584							
使用料及び賃借料			30, 000				30, 000							
国際ワークキャンプ費			00, 000	0			<u> </u>	100, 000						
雑費				20, 000	20, 000			20, 000						
総計				30, 000				785, 824						
4.0.H I				2, 500	.00,027	l		. 55, 52	. ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					

次年度への繰越金 0円

市助成金対象分(270,000円)					
予算費目	内容	金額			
報償費	里山クラフト、チェンソー講習会、「富田林の自然」原稿謝礼	40,000			
消耗品費	事務費、保全活動費など	110,905			
燃料費	作業機械、軽トラック	75,152			
郵送費	会議資料、助成金申請書・報告書などの送付	11,762			
備品費	スライドソー、インパクトドライバー、電動丸ノコ	66,170			
修理費	軽トラック、チェンソー目立て、電動カンナなど	124,559			
施設管理費	事務所電気代、施設整備	198,483			
保険料	ボランティア保険、スポーツ安全保険	85,584			
使用料及び賃借料	水田使用料	30,000			
	合 計	742,615			

第3号議案 監 査 報告 書

令和 3年 3月31日

富田林の自然を守る市民運動協議会 会長 田淵 武夫 様

> 会計監事 富田林の自然を守る市民運動協議会 理事 喜田 光子

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、年度会計に関する監査を 下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

【監査結果】

	事	項		意	見		指	摘	事	項		備	考
事実	業施	等状	の況	問題なし	,		特になし	à					
会	計事務	务の北	犬況	問題なし			特になし						
そ	0)	他	特になし			特になし						
総			括			(適正相	既ね	適正	・不適	Œ		

第 4 号議案 2021 年度事業計画 (案)

1. 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

「里山ホリデー」と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下樵り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理(間伐、枝打ち、伐倒木の皮むきなど)、休耕田・放棄田・溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路(作業路)造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00~15:00頃とする。

日程:2021年4月24日(土;中止)、5月22日(土)、6月19日(土)、7月17日(土)、10月9日(土)、11月13日(土)、12月19日(日)、2022年2月12日(土)、3月12日(土)。なお、12月19日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、富田林の自然を守る会は30周年記念事業として協議会が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を2019年度より開始している。雑木林の下樵り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお 2020 年より、新型コロナウイルスが世界的規模で感染を拡大しており、5 月 11 日まで緊急事態宣言が発出され自粛が要請されている。このような状況を踏まえて、当面はすべての行事を中止し、この状況が好転した時点で、役員会で慎重に判断して事業を再開することとする。

(2) 中野町竹林管理

現在協議会が管理している中野町の竹林は地権者の岸本忠三氏より富田林市が寄贈を受け、今後市が管理することで準備が進められている。市への管理移行は2022年度以降とされており、それまでは協議会が管理することになる。2021年度は自然緑地としての整備が行われる予定であり、6月~8月に協議会において整備計画の検討を行い、それに基づいて12月~3月に施工される予定である。これに先立ち協議会は市の担当部署と共に岸本氏にご挨拶に伺い「当該竹林の現況調査と整備についての検討」に基づく「今後の管理方針」や説明版などについてお話して意見をお伺いする。

工事着工前の11 月までは下記の日程で竹の伐採、チッパー作業、伐採木の処理、草刈りなどの作業を行う。時間は原則として毎回9:30~12:00とする。

日程:2021年4月11日(日;中止)、4月18日(日;筍掘り;中止)、5月12日(水)、6月15日(火)、7月13日(火)、8月15日(日)、9月18日(土)、10月12日(火)、11月14日(日)。

2. 文化的行事

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。

①田植え

日時:6月5日(土)10:00~15:00頃(予備日6日)。

②稲刈り

日時:10月16日(土)10:00~15:00頃(予備日17日)。

③稲こぎ

日時:11月6日(土)10:00~15:00頃(予備日11月7日)。

(2) 春の野草を食べる会

日時:4月29日(木;昭和の日)10:00~15:00頃(中止)。

場所: 奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時:11月23日(火;勤労感謝の日)10:00~15:00頃。

場所:奥の谷。

(4) どんどともちつき

日時:1月16日(日)10:00~15:00頃。

場所: 奥の谷。

(5) 里山生活入門

日時:1月29日(土) 10:00~15:00頃。

場所:奥の谷

3. 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察

①植物観察会

下記の日程でおこなう。原則として奥の谷を中心として実施するが、適宜地域を変更する。また、内容についても検討する。

日程:4月17日(土;中止)、5月16日(日;金剛福祉センター〜観心寺)、6月12日(土)、7月11日(日)、8月7日(土)、9月19日(日)、10月23日(土;どんぐり観察)、11月21日(日)、3月19日(土)。

②昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルート観察などを行う。

日時:7月24日(土)15:00~21:00頃。

場所:奥の谷。

③野鳥観察会

日時:2月20(日)9:00~13:00頃。

場所:近鉄滝谷不動駅~石川~春日神社~奥の谷。

④水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月26日(土)10:00~13:00頃。

場所: 奥の谷。

⑤観察会入門(春を見つけよう)

早春の動植物を見つける。

日時:2月26日(土)

場所:奥の谷

(2) 自然環境保全活用調査 その20

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 19 の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「自然環境保全活用調査」において2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの調査をまとめて市民向けの講演会を実施する。また、これらの取り組みを踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。

(5) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

計画で実施することになっている PDCA サイクルでの進行管理を、必要に応じて役員以外の関係者に参加していただいて実施し、森林環境譲与税の活用を含め具体的に計画が実行できるよう関係機関に働きかける。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

「国際ワークキャンプ大阪富田林 2021」が富田林の自然を守る会と NICE の共催で 9 月 3 日(金)~9 月 17 日(金)の日程で開催される予定となっている。この取り組みへの助成をはじめ協力・支援を行う。

(2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体への支援・援助を行う。

5. 会議

- (1) 役員会: 原則として毎月第3金曜日の10時~12時に市役所において開催する。
- (2) 総会: 2022年5月に市役所で開催する。

第5号議案 2021年度予算案

歳 入

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減 (予算-前年 度予算)	備考
補助金	243, 000	270, 000	270,000	-27, 000	
行事参加費	50,000	110,000	24, 900	-60, 000	
寄付金	350, 000	300,000	490, 924	50, 000	自然を守る会から30万円を 予定
雑収入	0	0	0	0	
繰越金	0	0	0	0	
総 計	643, 000	680,000	785, 824	-37, 000	

歳出

лхц					
項目	予 算	前年度予算	前年度実績	増減(予算- 前年度予 算)	備考
報償費	30,000	30,000	40,000	0	
消耗品費	100,000	150, 000	110, 905	-50, 000	
郵送費	10,000	10,000	11, 762	0	
燃料費	70,000	80,000	75, 152	-10, 000	
賄い材料費	30,000	50,000	23, 209	-20, 000	
備品購入費	30,000	30,000	66, 170	0	
修理費	100,000	100,000	124, 559	0	
施設管理費	50,000	10,000	198, 483	40, 000	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	80,000	70,000	85, 584	10,000	
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000	0	0	
雑費	13, 000	20,000	20, 000	-7, 000	
総計	643, 000	680, 000	785, 824	-37, 000	

第6号議案 富田林の自然を守る市民運動協議会規約改訂案

(名称)

- 第1条 この会の名称は「富田林の自然を守る市民運動協議会」(以下「協議会という」)と称する。 (目的)
- 第 2 条 協議会は、市民憲章の「自然を守り、緑と太陽にめぐまれたすみよいまちをつくりましょう」をふまえ、富田林市の環境保全と向上に関する基本条例に基づき、良好な環境を確保するため、 富田林の自然を守る運動を市民ぐるみで推し進めることを目的とする。

(事業)

- 第3条 前条の目的を達成するため次の事業を行う。
 - (1) 富田林の自然を守る運動を行う。
 - (2) 冊子「富田林の自然」等の発行を行う。
 - (3) この団体の目的達成に必要な活動を行う。

(構成団体)

- 第4条 協議会は、第2条の目的を達成することに賛同する団体をもって構成する。(別表1)
 - 2 協議会に加入しようとする団体は、役員会で賛同を得て加入できる。

(財政)

第5条 協議会の財政は、補助金及び寄付金等をもって充て、会計は一般会計と特別会計を設ける。 (役員)

第6条 協議会に次の役員をおく。

会 長 1名

副会長 1名

会 計 1名

会計監査 1名

理 事 若干名

- 2 役員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 3 役員は役員会で選定し、総会で承認を得る。
- 4 会長は会務を総理し協議会を代表する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。
- 6 会計は協議会財政の一般を統括する。
- 7 協議会に相談役をおくことができる。
- 8 会長及び会計監査は、他の役員を兼ねることができない。

(役員会)

- 第7条 役員会は、役員・事務局をもって構成し、会長が招集する。
 - 2 役員会は、過半数の出席をもって成立する。
 - 3 役員会は、事業計画全般と規約改正等について協議する。

(事務局)

第8条 協議会の事務局を自然環境保全担当課に置く。

附 則

- この規約は平成14年3月28日から施行する。
- この規約は平成20年3月26日から施行する。
- この規約は平成26年9月1日から施行する。
- この規約は令和3年5月日から施行する。

(別表1)令和 3年 5月 日一部改正 (順不同)

会員団体名	
富田林の自然を守る会	
竜泉里山クラブ	
NPO法人里山倶楽部	
<u>嶽の会</u>	
金剛の自然環境を守り育てる会	
NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク	

規約改訂理由について

1. 第6条の3

現行は「役員は構成団体の互選とする」となっているが実態は役員会で選定した人を総会で紹介し、承認しているので実態に合わせて「役員は役員会で選定し、総会で承認を得る」に改訂する。

2. 第6条の8

現行では兼務の規定がないので、会長及び会計監査を除き兼務が可能なことを明確にするため 「会長及び会計監査は、他の役員を兼ねることができない」を追加する。

3. 第7条の1

現行では「役員会は、役員・事務局をもって構成し、会長が<u>召集</u>する」となっているが、召集 は使い方が不適当で、正しくは<u>招集</u>であるため「役員会は、役員・事務局をもって構成し、会長 が<u>招集</u>する」に改訂する。

4. 付則の別表 1

- ①現行は「石川自然クラブ」が会員団体になっているが、「石川自然クラブ」は団体としては 閉会し、活動内容は石川河川公園事務所の事業として引き継がれたため構成団体から除外する。 ②現行は「富田林勤労者山岳会「嶽の会」」となっているが、富田林勤労者山岳会は解散し、 「嶽の会」として活動しているため会員団体名を変更する。
 - ③「NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク」が新しく会員団体として加入する。

第7号議案

富田林の自然を守る市民運動協議会 2021 年度役員(案)

役員名	氏 名	団体名
会 長	田淵 武夫	富田林の自然を守る会
副会長	上角 敦彦	嶽の会
会 計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	喜田 光子	金剛の自然環境を守り育てる会
理事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部
理事	小川 力也	NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク

団 体 名	郵便番号	連絡先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	若松町四丁目16番21号	090-8888-3912
竜泉里山クラブ(代表:中島正博)	586-0094	河内長野市小山田町 3079-8	090-7118-2517
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目20番6号	0721-25-3128
嶽の会	584-0024	若松町四丁目6番29号	0721-24-8757
金剛の自然環境を守り育てる会	584-0073	寺池台三丁目 15番 10号	0721-28-4737
NPO法人学びと育ち南河内ネ	584-0032	常磐町 15-10	0721-55-4682
ットワーク		石田ビル 3F	

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 O9O-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局 産業まちづくり部 森木 和幸 部長

片岡 一浩 理事

農とみどり推進課 山中 敬之 次長兼課長

森本 浩明 課長代理

みどり公園係 西田 圭佑 係長

山口 はるか 係員

河邉 昂平 係員

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号 富田林市役所 電話 0721-25-1000 内線 424 FAX0721-20-2072 Eメール nou@city.tondabayashi.lg.jp